

公益信託ENEOS水素基金 第12回助成金贈呈式を開催

JXTG エネルギーは、2006 年より「公益信託 ENEOS 水素基金」を通じて水素エネルギーの供給に関する基礎研究への助成を行っている。年間総額約 5,000 万円（1 件当たりの上限は 1,000 万円）を約 30 年にわたり安定的、継続的に助成することで、水素エネルギーによるサステナブルな社会の早期実現を目指している。今年度は、57 件の応募の中から運営委員による書類審査とプレゼン審査の結果、6 件のテーマが採択された。

11 月 6 日に行われた助成金贈呈式では、委託者代表の杉森社長から、「本基金の助成を最大限に活用して、独創性・革新性に溢れる研究成果を生み出し、水素社会の到来に向けて、大いに貢献していただきたい」とのあいさつがあった。また、堂免一成運営委員長（東京大学大学院教授）より、「世界に先駆けた助成金を大事に使い、立派な成果を上げていただきたい」との激励のメッセージが送られた後、助成対象者に目録が贈呈された。

（中央技術研究所 技術戦略室 エネルギー技術グループ 塚越 庄一）

2017 年度 研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	水と炭化水素から水素と有用含酸素化合物を製造するための超高効率脱水素触媒の開発 山口 和也（東京大学大学院 工学系研究科 応用化学専攻 教授）
	単原子助触媒サイトを持つナノシート光触媒を用いた助触媒上での水素生成機構の解明に関する研究 伊田 進太郎（熊本大学大学院 先端科学研究部 教授）
水素貯蔵・輸送に関する技術	カルシウム窒素水素化物を利用した低温作動アンモニア合成触媒の開発 北野 政明（東京工業大学 元素戦略研究センター 准教授）
CO ₂ 固定化・削減技術	吸着熱を有効利用する二酸化炭素吸着剤 / 蓄熱剤一体化マイクロカプセルの開発 赤松 憲樹（工学院大学 先進工学部 環境化学科 准教授）
	革新的 CO ₂ 分離システム開発を指向した自己熱補償型ソフト MOF 複合材料の探究 田中 秀樹（京都大学大学院 工学研究科 化学工学専攻 准教授）
	二酸化炭素の水素化によるメタノール合成のための高効率錯体触媒の開発 姫田 雄一郎（産業技術総合研究所 創エネルギー研究部門 上級主任研究員）



2016 年度、2017 年度助成対象者および ENEOS 水素基金関係者